

来賓祝辞

皆様こんにちは。創立25周年記念式典に当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

平成10年4月に開校し、令和5年、創立25周年を迎えました。緑の深い今日の良き日に、記念式典が挙行されます事、誠におめでとうございます。

統合前の2校の歴史を辿れば、旧鶴岡家政校は、約100年前の大正13年5月、伊藤鶴代女史が、鶴岡裁縫塾を開き、その後数回校名を変更し、昭和25年4月に、鶴岡家政高校に校名変更、鶴岡西高は、75年前の、昭和23年4月、大山高校として設立され、昭和39年4月に鶴岡西高校に校名を変更、長年にわたり、歴史と伝統を築いてまいりましたが、時代の変遷に伴い、両高校ともに平成10年3月31日に閉校し、4月に統合致しました。

両高校の統合を受け開校した鶴岡中央高校は、恵まれた環境の中、地域に定着した学校となり、教育目標である、「立志・気づき・共生」の理念に基づく教育方針の下、文武両道を掲げ、自信と誇りと勇気を持った生徒の皆さんが、運動部・文化部の各々で活躍する姿に、嬉しさを感じています。また、旧家政校・旧西高を含めた同窓生は、日本の各地の夫々の分野で、社会生活や経済活動において、積極的に貢献していると推察され、経緯と感謝を申し上げます。

令和2年1月に発症した新型コロナウイルス感染症は、3年数か月経過し、今年5月に感染法の5類に分類され、収束に向かい、以前の暮らしに戻りつつあります。これからも感染防止に留意し、人類の英知を出し工夫しながら、皆様と共に乗り越えていきたいと思っております。

「超師之作」という禅のことばがあります。唐代の、百丈懐海禅師の言葉で、「見、師と斉しければ、師の半徳を減ず。智、師を過ぎて、方めて伝授するに堪えたり。子の今の見処、宛も超師の作あり」と記されています。師匠と同じレベルに達しただけではダメで、師匠を超えてようやく師匠の教えを受け継いだと言える事であり、目標を超えることを目指さない、との言葉であります。兎角人間は、目標を達成すると安心をするが、その上を目指さなければ進歩はないという教えです。私も皆様と共に精進して参りたいと思っております。

結びに、鶴岡中央高校の益々の発展と、本日ご列席の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます、来賓を代表しお祝いの言葉と致します。

本日は誠におめでとうございます。

令和5年6月14日
山形県立鶴岡中央高等学校
黎明同窓会会長 田中俊彦